

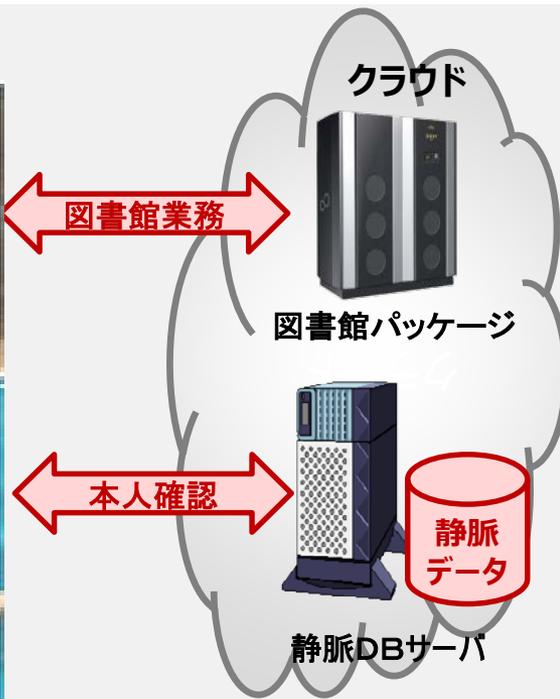
事例名：手のひら静脈による図書館利用者カードのカードレス化 ユーザ名：那珂市立図書館様(茨城県)

システム概要

非接触型手のひら静脈認証技術を採用した図書館利用者カードのカードレス運用

- 本の背表紙に埋め込まれたRFIDにより借りたい本を一括読取し、手のひら静脈により利用者を特定する
- 画面表示並びにレシート印字により、貸出し一覧/返却日を確認する
- 上記構成により、無人の貸出機でも本の貸出しが可能（補助の必要な人の為に、有人カウンタにも同設備を用意）

システム構成



構成機器

- 手のひら静脈認証センサー PalmSecure
- RFID

情報媒体

- バイオメトリクス（手のひら静脈）
- RFID

システムの特長

図書館の利用者カードを手のひら静脈に置き換え、利用者カードを所持していなくても、手ぶらで本が借りられる。

導入の背景

財布の中には数多くのカードが格納されており、常に使うカードが優先して格納されるため、利用頻度の低いカードは自宅等に置いておかれ、必要な時にカードを所持していないということが多々ある。図書館の利用者カードもそのようなことがあり、図書貸出し率の低下を招いている。また、決済カード等と異なり、小学生から高齢の方までカードホルダとなる対象範囲が広いいため、特に小学生等にはカード紛失の可能性も高い。

課題

- 図書館にとって最適な生体認証の選択
 - ×虹彩認証：装置が大きく高価
 - ×筆跡：窓口に来て書いてもらう必要がある
 - ×声紋：声を出すものは不向き
 - ×指紋、顔認証：犯罪捜査のイメージ

課題の解決

- 手のひら静脈認証の採用
 - － 認証精度が高く、環境の影響が少なく、非接触であるため不特定多数が利用する環境に適している
 - － 小学生から高齢者の方まで操作可能な、「手をかざす」というシンプルな操作性により、セルフ端末でも操作可能
 - － 犯罪捜査には無関係

解決の効果

■非接触型手のひら静脈認証技術を採用したカードレス運用

- ①利便性の向上 利用者は利用者カードを利用することなく、簡単、確実に図書館サービスを受けることができます。
- ②安全性の確保 利用者カード紛失などにより、カードを不正に利用されることが無くなります。
- ③環境への配慮 利用者カードの発行が減ることで、省資源に貢献します。

■カード非携帯による貸出し機会ロスがなくなった（思い立った時に手ぶらで借りられる）ため、同規模レベルの図書館の中で、「貸出し率No.1」となった。

今後の展開

図書館パッケージのオプションの位置付けにあり、今後の図書館システム更改時の横展開を計画している。
また、公立の図書館であれば登録者は地域住民であり、文教機関の図書館であれば登録者が教職員・学生であるため、その登録者の活動範囲に静脈認証の適用可能性がある。

導入実績

参考URL

お問い合わせ先

富士通コンタクトライン（総合窓口）

0120-933-200

受付時間：9時～17時30分（土曜日・日曜日・祝日・年末年始を除く）